

HATAKE ちょうふの畑



平成22年の調査では市内にて160haの農地がある調布市。多いですか？少ないですか？

【佐須】
佐須でお尋ねしたのは村越さんの畑。以前は田んぼで、カニ山から見た風景は海の中にも密接なつながりのある地に浮かんで見えたという場所。それが中央高速ができた、下水道の整備などで、水脈が切れたのか急激に水量が減っ

てしまい、徐々に畑に転換していったのだそうです。この地域でも残っている田んぼはほんのわずかです。

ここ、佐須地域は自然広場の雑木林の落ち葉を堆肥に使用するなど、国分寺崖線の雑木林

でも心休まる最高の場所と



ハウス内ではピー太郎という新しい野菜が栽培されていた



すぐ隣には新しい住宅があり、畑のにおいやほこりも課題の一つ

畑の向かいで販売されている野菜。この日も10種類ほどの新鮮な野菜が並べられていた。



ハウスの隣にはすてきな庭(?)があり、ここの花は切花としても販売されている。



【調布ヶ丘】
関森さんの畑は野川の南、調布ヶ丘にあります。六代も前からの農家だそうです。昔は野川に向かった傾斜地で水が豊富だったため、このあたりは田んぼだったとのこと。現在は写真上のように畑地に接して宅地が迫っている状態です。

今の時期は小松菜など葉物野菜が元氣よく育ち始めていますが、市場には出さず何種類もの野菜を少しづつ生産し、一年中切らさぬように栽培、販売しているのだそうです。

二十年以上前にはウドの栽培もしていたとのこと、当時は近隣の農家も「東京ウド」として手がけていたそうで、関森さんは苗の栽培に茨城まで行き、育てたウドを調布でウロに寝かせ出荷していたのだそうです。

また以前は学校給食に野菜を提供していたこともあったそうですが、決められた種類を決められた時間に揃ったサイズで納品しなければならぬなど困難が多く、やめてしまった農家が多いとのこと。簡単に地産地消と言っても、むしろ難しいことも多いようです。